連載

志茂田景樹

ことばの持つ力「よいこに読み聞かせ隊」

第27回

・隊長旅日記

氏名	志茂田（しもだ） 景樹（かげき）
生年月日	1940年3月25日
出身	静岡県
身長	178センチ 体重61キロ
血液型	A型 星座 牡羊座
最終学歴	中央大学法学部
職業	絵本作家・児童書作家 小説作家・読み聞かせ隊長
肩書き	よい子に読み聞かせ隊 隊長

いじめテーマの講演と兵どもの夢の跡

湘南新宿ラインに乗って北本駅で降りると、久喜市教育委員会のOさん他1名が車で出迎えてくれました。会場のある久喜市菖蒲町はもともと同名の自治体の町で、2010年に他の2自治体とともに久喜市に合併して久喜市菖蒲町になりました。

菖蒲町には菖蒲城址があります。戦国時代、この地域で勢いを得て、古河公方の足利市に仕えた金田氏が築城し、完成した日が5月5日の菖蒲の節句だったので、菖蒲城と名づけられたそうです。戦国末期には金田氏は忍城主の成田氏に随身しました。

忍城址は行田市にありますが、2・3年前、行田市に講演に行きました。その折りに市長の工藤正司さんから、「のぼうの城」を頂きました。

「のぼうの城」は秀吉の小田原攻めの際、忍城に攻め寄せた石田三成率いる大軍を、小田原城に入った成田氏長に代わって、一族の成田長親が城代として3000の兵で迎え撃ちましたが、その攻防戦を描いた作品です。

三成は延長距離約28キロに及ぶ長大な堤を建設、利根川の水を引いて忍城を水に浮く城にしましたが、忍城はよく持ちこたえ、小田原の落城を見て開城したのでした。

日を改めて工藤市長に古代蓮の里に招かれ、見事に花を咲かせた古代蓮の大群落に息を呑みました。

続いて展望タワーに案内され「のぼうの城」の表紙絵を模した、田んぼアートを鑑賞しました。菖蒲文化会館に着くまでの間、戦国期にこの地域でも兵どもが残したであろう夢の跡を脳裏に描いて、束の間、現実から脱出した空間にいました。

講演のほうはこれまでにかなり多くやっている演題で得意といえば得意なテーマでしたが、マンネリにならないよう今まで披露しなかったエピソードも交え、いじめを受けてトラウマを抱えた子供が成長していく過程でそのトラウマをどう克服していったかを話しました。

小学校分校時代の同級生の話です。その同級生は工場経営者の息子でした。オートバイの部品を作っていた工場で、50戸前後の社宅までありましたから、戦後間もなくの東田園地帯にある工場としては規模の大きいほうでした。

彼は入学したときから分校の帝王でした。なぜかと言うと、僕らの分校は彼のお父さんが経営する工場の社宅から通うグループが支配していたからです。

菖蒲会館 壇上の志茂田さん

彼が入学すると、そのグループの上級生たちが彼の家来同然の態度を取りました。

同級生で彼の家のことをよく知らない農家の息子が昼休みの校庭で彼と喧嘩を始めました。すると、社宅グループの上級生たちがすっ飛んできて農家の息子を袋叩きにしました。

そんな状態ですから、分校最上級の4年になったときの彼は文字通り専制君主で、指先一つの動きで、全分校生を動かしていました。5年で僕らは本校に進学しました。

もともとの本校の児童に、いくつかの分校の生徒が加わりましたから、彼の専制君主的立場はあっという間に崩壊しました。5年6年の2つの学年に社宅グループは存在しましたが、他に複数の強力なグループが存在したため、分校時代のような勢いはなくなっていました。

僕らが6年に進級する前に僕らが学んだ分校は本校への昇格が決まりました。それで、僕らは本校へ昇格した新校舎の旧分校に戻りました。僕らの学校の学区が広くなって分校時代に比べると、児童数が倍になっていました。社宅グループは支配権を握れず、僕らが1年間留守をしている間に興隆した反社宅グループに取って代わられました。その状況の中で帝王時代の彼に対する恨み辛みが反社宅グループの間で噴き上げて彼に対する執拗ないじめが始まりました。

彼のお父さんが工場を人出に渡すという学校外のドラマもあって、社宅グループも彼に対するいじめには見て見ぬふりを決め込みました。

彼は私立の中学へ進み、成績が優秀だったため、そこではクラスの人望を集めたようです。

社会人になってからですが、今でもいじめを受けている夢を見て目を覚ますといったことがありました。克服したつもりでも、いじめを受けた記憶はいくつになっても、突然、フラッシュバックして鮮明に戻ります。

いじめはなくさなければなりません。